

職員10人のうち回答9件

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6		3		■事業所内は、4部屋に分かれており、十分なスペースがあります。コミュニケーションを活発に取りたい利用者様と、静かに落ち着きたい利用者様がお互いに気持ちよく過ごせる様環境調整を行っています。	
	2	職員の配置数は適切であるか	8	1			■保育士・児童指導員が3名以上配置されています。その他のスタッフを含めると10名利用者に対し6～7名のスタッフが配置されています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	1	5		■森では周辺の神社や探検コースも含めて、十分な広さの中で活動できています。事業所内では、4部屋に分け、工作、伝承遊び、読書、おやつと環境設定を行っています。	■事業所内での活動において、活動内容により、日によって部屋の用途が変わることがあり、口頭だけの説明ではなく、視覚支援を用いて伝えることを検討します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	1	3		■森では、必要に応じて草刈りやスロープの設置、危険箇所が分かる様にテープで囲む等の工夫をしています。事業所内では本や遊び道具を決まった場所に配置し、清掃は毎日行っています。	■森では季節に応じて危険な対象や場所が変わります。冬場は強風や焚き火、夏場は毒性の生き物など、スタッフ間の周知だけでなく、利用者様への周知もさらに細かく行い徹底します。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4		3	2	■業務改善に向けて、困ったことや疑問に思ったことを言いやすいような雰囲気づくりと、ヒヤリハット報告書の活用、ミーティングでの振り返りを行っています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7	2			■毎年、保護者向けのアンケートを行い、職員研修にて共有し業務改善に役立てています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	3	2	2	2		■2024年は、ホームページで改善内容の公開を逐次公開していきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	3		3		■現在、実施していません。検討中です。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8			1	■月に1回、スタッフ全体研修が開催され、常勤・非常勤の全スタッフが受けています。	■強度行動障害への対応、障害児の性教育、視覚支援のスキルアップなど、支援の質を高める研修を実施していきます。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	8			1	■保護者様への聴き取りの他、発達検査の結果やサービス利用計画書等を元にし、担当者間で会議を開き支援計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1		3	5	■標準化されたアセスメントツールを使用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7			2	■2024年3月より、「総合的支援の5領域」（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）および家族支援に係る計6項目に準じて個別支援計画を作成し、具体的な支援内容に反映しています。■地域支援については、これまで陽楽の森や地域の公園で開催されるマルシェ等のイベントに参加・出店し、地域の子どもたちとの交流を図っています。	■2024年度も引き続き左記内容を継続実施します。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	6		3			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	5	1	2	1	■常勤スタッフで立案し、非常勤スタッフからの意見を取り入れ共有している	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	5	1	2	1	■利用者様の状況や季節、気候に応じてプログラムを立案しています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7		1	1	■子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、計画を作成しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	9				■必ず打ち合わせを行い、3Dシステムのに基づき、ディレクターの統括の下、救護、タイムキーパー、記録、食事、備品・配車の担当を決め、口頭で確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	1	5		■終了後対面での振り返りが困難な場合は、翌日あるいは週1回の定例ミーティングで振り返りを実施しています。	■振り返りのデジタル化を検討しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6		3		■毎日の業務日誌での記録の他、別途記録が必要な利用者様には個別の記録を作成し、支援の検証・改善に繋げています。	■支援記録のデジタル化を検討しています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	6		2	1	■定期的にモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しています。 ■利用開始間もない利用者様には随時モニタリングを実施し、計画の見直しを図っています。	
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6		1	2	■担当者会議には児童発達支援管理責任者が参加しています。■可能な限り直接支援担当スタッフ1名が同行しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	6		2	1	■相談支援専門員や園との連携の外、必要に応じて保健師や療育教室の関係者とも連携しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	2		1	5	■現在、医療的ケアが必要な利用者様や重症心身障害のある利用者様は利用されていません。	■今後、対象の利用者様が利用される場合は、関係機関と連携し支援を実施します。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	1		1	6		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5	1	1	2		■保育所等との支援内容等の情報共有と相互理解を図る機会は、サービス担当者会議の場に限定されることが多いです。■2024年度は保育園等と個別に面談の機会を設けていきたいと考えています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	5		2	2	■多機能型事業所として、児童発達支援と放課後等デイサービスを一体的に運営しているので、進学の際、小・中・高校まで幼児期の情報提供が可能です。	■小学校等との支援内容等の情報共有と相互理解を図る機会は、サービス担当者会議の場に限定されることが多いです。■2024年度は小学校等と個別に面談の機会を設けていきたいと考えています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4		1	4	■相談支援事業所主催の研修に積極的に参加しています。■対応に苦慮する事例では、相談支援事業所、ハートランドしぎさん・こどもの心診療センター https://www.heartland.or.jp/shigisan/approach/effort.html 等の専門機関と連携し、助言を受けています。	■2024年度は奈良県総合リハビリテーションセンター http://www.nara-pho.jp/reha/index.html との連携も行います。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2	4	2	1	■地域のイベントへの参加、また、日々の活動場所が森や近隣の田畑、公園なので地域の子どもと自然に関わる機会は多くあります。	
関係機関や保護者との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	2	3	1	3	■西和七町障害者等支援協議会全体会に参加しています。	■西和七町社会福祉協議会子ども部会・地域の子ども・子育て会議の有無を確認し、参加するよう努めます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9				■連絡帳・送迎時に報告をし情報交換を実施している。また保護者様とメールや電話にて細かく連絡を取り、共通理解に努めています。	■連絡帳のデジタル化を検討しています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	3	3	1	2	■ご利用者様への対応について悩みを抱える保護者様には個別に面談し、家族支援を実施しています。	■2024年度は、「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」（厚労省） https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000653549.pdf に基づく支援を具体化していきます。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3		1	5	■契約時には児童発達支援管理責任者が、重要事項説明書の内容を全て丁寧に説明しています。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7			2	■支援計画交付の際は、説明を行い、同意を得ています。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8		1		■モニタリング時には様々な角度からお話をして相談してもらいやすく工夫しています。■日常的に、保護者様からの相談に応じる体制をとっていますが、必要な助言がその場で出来ない場合は、スタッフ会議に持ち帰り協議し、後日お知らせしています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	4		4		■どすこいでは2018年より家族会を組織し、セミナー・親睦会（お母さん同士のお話会、お父さん対象の飲み会OYAJI会）・フィールド体験会（森林再生ボランティア活動・カヌー体験）を実施してきました。■家族会は2020年以降コロナ禍のため活動を休止していましたが、2024年度から活動を再開します。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	7		2		■苦情窓口を設置してます。申し入れがあった場合には必ず共有し、ミーティングで話し合い、必要であれば本部に相談します。	■2024年1月、より迅速に苦情に対応するため、どすこいでの苦情窓口を法人本部に変更しました。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6		2	1	■毎月の利用申し込みの案内に活動概要や、必要なお知らせを載せています。■日々の活動はインスタグラムで公開しています。■吉川LogisticGroup社内報「TSUNAGU」にも活動内容を記載しており、発刊ごとにご利用者様全世帯に配布しています。	■2024年度よりブログ（note）の再開を予定しています。■WEBでの情報発信だけでなく、印刷物（会報）の発行を準備中です。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	8		1		■個人情報のファイルは鍵付きの書庫に保管しています。■社用スマートフォン（緊急事態に備えて利用者様の連絡先等を保存）は必ず携帯し、暗証番号のロックをかけています。■個人情報の取り扱いに関する同意書を事業者・スタッフ間で交わしています。■利用者様の画像・映像をSNS・印刷物に使用する際は、事前に保護者様からの承諾を得ています。	■事業者・スタッフ間の同意書について、より実態に即した内容に改訂し、改めてスタッフと交わすことを検討しています。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	7		2		■子ども達には一人ひとりに適した情報伝達の方法を用い、保護者様にもメールでは伝わりにくい方には電話で伝えるなどの配慮をしています。	■どすこいでは、コミュニケーションの際に①「具体的・肯定的・視覚的」②「見通しを立てる」③「自分で選ぶ」の三点に留意しています。■コミュニケーションツールとして「株式会社おめめどう」の視覚支援ツールを活用しています。https://omemedo.ocnk.net/
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	2	5		2		■2024年度は、作品展や、森の整備等のイベントを開催し、地域の方との交流を図ります。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	8			1	■「非常災害対策マニュアル」、「防犯マニュアル」、「感染症対応マニュアル」の他、「交通事故対応マニュアル」、「怪我・救急搬送・失踪事故対応マニュアル」が策定されています。■スタッフが閲覧しやすい場所に設置し、いつでも確認できるようにしています。	■2024年度よりご家族への周知・説明の機会を設けます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3	2	2	2	■日々の支援前に、救急搬送や失踪を設定したロールプレイを実施しています。	■利用者様と共に訓練を実施していきます。■訓練を実施した様子は保護者様と共有します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	8		1		■服薬、てんかんについては情報を頂いています。（予防接種については接種状況を確認していません。）	■予防接種についても状況確認を実子します。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6		2	1	■保護者様より食物アレルギーの有無と対応について確認しています。	■2024年度より、保護者様に医師の指示書の提示をお願いしていきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9				■日頃からヒヤリハット事例を収集しています。■ヒヤリハットが発生した場合はミーティングで振り返り、対策を考え、実行し事故防止に役立てています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	7		1	1	■虐待についての外部研修を受けたスタッフが内部で共有し、研修を行っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	4	2		3	■どすこいでは、身体拘束は一切行っていない。	■2024年度より、「身体拘束の必要が生じる可能性がある」利用者様と契約する際に、支援計画に記載します。 ■止むを得ず身体拘束を行う場合の基準と方法について、どすこい内部で組織的に策定し、ご利用者様・保護者様にご説明し、ご了解を得たうえで支援計画に記載します。